

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-131	22-305	慶應義塾大学 加藤眞三
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Why do women consume alcohol during pregnancy or while breastfeeding? なぜ女性は妊娠中や授乳中にアルコールを摂取するのか？		
<b>執筆者</b>		
Popova S, Dozet D, Akhand Laboni S et al		
<b>掲載誌</b>		
Drug Alcohol Rev. 2022 May;41(4):759-777. doi: 10.1111/dar.13425. Epub 2021 Dec 28.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
胎児性アルコールスペクトラム障害 (FASD) ; 母乳育児 ; 妊娠時の飲酒 ;		34963039
<b>要 旨</b>		
<p><b>問題：</b> 妊娠中や授乳中のアルコール摂取は、胎児性アルコールスペクトラム障害 (FASD) など、母児に有害な健康転帰をもたらす。</p> <p><b>アプローチ：</b> 系統的文献レビューおよび主題別統合。妊娠中および授乳中のアルコール摂取の理由を含むオリジナル研究を対象とした。Mixed Methods Appraisal Tool (MMAT) と Confidence in the Evidence of Reviews of Qualitative Research (CerQUAL) のアプローチを利用した。レビュープロトコルは PROSPERO で入手可能である (登録番号 : CRD42018116998) 。</p> <p><b>主な結果：</b> 16 カ国の女性からなる 42 の研究が適格なものとして含まれた。妊娠中のアルコール使用の理由として最も多く報告されたのは、社会的圧力と、「強い」(濃い) アルコールと大量のアルコールのみが有害であるという信念であった。その他の理由としては、胎児への悪影響に対する認識不足、不利な人生経験へのコーピング、直感的な意思決定に基づく飲酒、個人的/仲間内の経験に影響された飲酒、アルコールの有益な特性に対する信念、医療従事者からの助言、望まない妊娠または計画外の妊娠、アルコール依存症、文化的/伝統的習慣としての消費などが挙げられた。授乳中にアルコールを使用する理由としては、アルコールが母乳の分泌を促進するという信念、医師からの不明確なアドバイス、乳児がアルコールにさらされるリスクに対する無自覚、気分の向上やイベントを祝うためなどが挙げられた。</p> <p><b>示唆されること：</b> 妊娠中のアルコール使用の理由の背景を理解することは、出生前健康教育を実施し、FASD やその他の母子健康有害転帰を予防するために極めて重要である。</p> <p><b>結論：</b> 妊娠中のアルコール使用は、個人の信念、知識/助言、文化、個人的状況に影響される。授乳中のアルコール使用を取り巻く理由についてはデータが限られている。</p>		